



写真：10月21日に来町した台湾八大テレビによる歌オブナ林の撮影風景

B2

ニュースレター

2015/11/19

～12月のオススメイベント～

つなげよう、支えよう森里川海ミニフォーラム IN 黒松内

町内外から30名、知られざる作開の歴史ロマンを体感

【黒松内・寿都】10月10日(土)

今年度のブナ里みてあるきイベント第2弾として、地域の歴史・文化資源の掘り起こしを図るため、歴史探訪イベント～北辺の地「作開」に生きた流浪の会津藩士～をブナ里ツーリズムが企画・実施した。イベントでは、会津藩より転封され斗南藩となった藩士の中から、北海道への開拓を命じられ、作開に入植した藩士たちの歴史について、作開の歴史に詳しい同地区出身の北村英芳氏(黒松内在住60歳)に案内役を依頼した。現在は一般公開されていない寿都町有戸地区の北海道有形文化財「漁場建築家屋・カクジウ佐藤家」をはじめ、藩士たちの墓碑が残る作開墓地、旧幕臣・榎本武揚が開拓使へ出仕途中に参詣した作開観音寺などを巡り歩いた。イベント当日は、岩内町郷土館・館長の坂井弘治氏や八雲町郷土資料室・学芸員の柴田信一氏なども駆けつけ、カクジウ佐藤家の特別内部見学や町内参加者との交流を楽しんだ。



作開地区熊野神社前にて、斗南藩士ゆかりのストーリーを紹介する北村氏

斗南藩の歴史と藩士たちの作開移住

戊辰戦争によって朝敵の汚名を着せられて会津を追われた会津藩士とその家族1万5000人は、青森・下北地方に集団移住し、「斗南藩」を建てる。斗南の名は、中国の詩文「北斗以南皆帝州」から取ったとされ、辺境の地であっても皇国に変わりはなく、開拓して豊かにしようとの希望が込められている。しかし、3万石と言われた下北の地は実質7000石しかなかった。また、今日でもヤマセが吹き、米作に適さない地にあり、侍上りのにわか百姓が困窮するのは目に見えていたこともあり、会津藩士の不満を抑えるため、明治政府は北海道のいくつかの地を会津藩に割り当てた。

その一つが歌棄郡で、明治4年には、隣の作開村(現黒松内町作開地区)の開拓も命じられ、28戸の会津藩士とその家族135名が移住する。

姉妹市町交流訪問を終えて

ー西予ジオパークガイドネットワーク・三好くにこさんー
7月のビーフ天国に合わせて本町と姉妹市町提携を結び、西予市の交流団が、黒松内の人・自然・文化に触れました。交流団員の三好くにこさんが、黒松内体験の感想を詩で表現し、届けてくれました。 ページ2

黒松内今昔物語 ～黒松内山道こぼれ話～

ー酒と旅ー
山道で徳利を発見！黒松内に酒蔵はあったのか？
文：北村 英芳 ページ3

ビーチガールズに聞く 笠間サチ子さん ページ4

ギンリョウソウや黄葉のブナ林の季節には、毎年のようにお気に入りの添別ブナ林を歩くという札幌出身の笠間さん。黒松内へ移住し、13年が経過するが、これまでに沢山の友人を黒松内でもてなしてきた。ブナの里山と交流の魅力をサチ子さんに聞いた。



ブナマルシェ 2015 10月24日に終了！



おすすめ本の紹介



「ピンク、ぺっこん」 村上康成 著 徳間書店
単行本 1400 円(参考価格)

11 月に入り、さすがに溪流釣りのシーズンも終わり、来年 6 月の解禁日までは、美しいパーマの山女魚には会えない、、、長い冬の間、オジサンでも楽しめるピンクシリーズ! の絵本を家に飾って春を待ちたい。

ストーリー

春に生まれたヤマメの子ども、ピンク。おなかはいつもぺこぺこ、ぺこぺこのぺっこん! どこかにおいしいえさはないかな? 川のなかをすーいすい泳げば、ときどき怖い目にもあうけど、ピンクは毎日元気いっぱい! ヤマメのピンクの生涯を描く人気絵本作家・村上康成のピンクシリーズ第一作目。

姉妹市町交流訪問を終えて。。

四国西予ジオパークガイドネットワーク 三好くこ

7 月に姉妹市町交流団で訪問した西予市の三好さんが黒松内での感想を、詩で表現し送ってくださいました。

～再始動ダンス～

黒松内町の歌オブナ林を歩くと、タチギボウシが「私の白さを見て」と、シュロソウが「充電しろ」と、時の流れを平常にしてくれた。ブナ林を進むにつれ感性年齢が何年も若返っていく。ブナの木の下に立ち、ブナを見上げればブナの滴が肩に落ち、確実に、身体に浸みて、流れはじめ、ここで過ごした時間が濃厚になっていくようだ。

黒松内音頭を踊ると、長身の人達に見つめられた。「この町をつくり、守り、受け継いでいる」と目で伝えられた。私は、何に酔ったのだろう。

ビーフ天国に行くと、溶かしたチーズを勧められ、ワインを注がれ、牛肉を浴び、会話を浴び、笑いを浴び、ビールも浴び、心意気も浴びる。そして、開拓精神をも浴びた。北大・縁のダンスを何と呼ぼう? 裸馬、鹿、キタキツネの叫びを表現したのか?

いや、聡明な人間謳歌の再始動ダンスだと思う。



～山に登れば気分爽快～ 秘境迷走・・・その弐 秘境の湯「金華湯（きんかとう）」文 ノースランド 辻野健治

こんにちは～ ブナの森の登山ガイド 辻野です。

秘境つながりで、秘境の湯 金華湯について・・・ちよつとだけ、お話しします。(ワクワク)

えっ～ちよつと。。だけ? 卑怯(ヒョウ) だなー、そう秘境(ヒョウ) ですから。

あれ? ひょっとして前にも言いましたっけ?

金華湯は、島牧村の泊川支川小金井沢川にあり、金花湯、黄金湯、小金井湯等と呼ばれています。昭和の始めに泉源が確認されましたが、昭和 35 年頃に林道が作られ、また、浴槽も同年に作られたと聞きます。昭和 50 年代までは、林道は通行できたそうですが、今は通行不能です。

お湯は硫黄とカルシウム分が強く石灰華が多いので、浴槽は沈殿物で埋まっていて、入浴の際には、沈殿物を掘らないと入浴できません。遠目に見みると硫黄分の沈殿物が黄色く見えるので、黄色＝金・華湯と名付けたのでは? 高山植物の襲名に似ていますね。

林道が通行不能になったので、徒歩での訪湯しか出来ません。ルートは 2 通りあり、一つは大平山登山口から泊川を遡行していきます。実は、昭和 50 年台には林道がありましたが、洪水や土砂崩れで壊れてしまい、今では面影しか残っていません。ですから、金華湯へ入湯するには、それなりの登山装備や技術が必要となります。もう一つのルートは、国有林道カモイ泊川マス川線を行き、小金井の沢支線を歩きます。ただし、村林道千走宮内線との交点にはゲートがあり、約 10 km 地点からは、林道が崩落していて、車輛通行は出来ません。しかし、こちらは歩行することは可能ですので、たった 20 数 km! ? 歩けば簡単に行けるのです。近年、オフロードバイクや小型ジープで不法な手段を使い、ひとつぶろ浴びようとする輩がありますが、困ったものです。

以前、この秘湯に某テレビ番組「野天湯に Go」の取材で、温泉愛好家の山田ベにこさんを案内しました。取材は 1 日で、20 数 km を往復しましたが、ベにこさんの脚力、笑顔、脱ぎっぷり? には、いや～惚れ惚れしました～♥。金華湯は、野性味いっっぱいの野天湯、熊さんとの混浴も可能です。



入湯するには 20 数キロ、約 6 時間の歩行、クマ対策が必須



ベニコさん入浴シーン

FOOD&DRINK

「佐藤農場の強力粉」

～自分で作った小麦で美味しいパンを食べたくて～

目名地区佐藤農場の佐藤英幸さんは、今年 7 月より自家製小麦「春よ恋」で製粉した強力粉の販売を道の駅トワヴェールⅡでスタート。近年、国産素材にこだわるパン屋さんなどでは、道産の強力粉が需要を高めていることもあり、春播小麦「春よ恋」は強力粉の主力品種である。佐藤農場の小麦は、麦の品質を評価する格付けで 1 等の品質とされてきたが、本人は、ある不満を持っていたという。「農協に小麦を出荷するだけでは、自分の農場で作った小麦が本当に美味しいのかわからない。そこで、生産量は少ないけど江別製粉に製粉をお願いし、強力粉として商品化し、販売することで自分の小麦が消費者の元へ直接届くようにしたかった。」と小麦粉の販売の理由を語ってくれた。将来の目標を佐藤さんに尋ねてみると「自分の作った小麦を粉にして、自分の家の窯で焼いたパンを食べられたら最高でしょう！」という答えが返ってきた。（1kg・600円 道の駅にて販売中）



「雪国に挑む みかん」 地域おこし協力隊 高田龍一

「どうして黒松内を選ばれたのですか」。道の駅くろまつないの館内特設コーナーで「早生みかん」の販売をしている方に質問したところ、「(道の駅) 駅長さんが許可を出してくれたんですよ」とのこと。

他にも「むかわ町」等、道内数か所で販売スペースを借り、熊本のみかんをPRしてきたそうです。



福岡で、学童の子どもたちと盆踊り

私は黒松内町地域おこし協力隊として、今年の 4 月下旬に福岡からこの地へ来ました。現在はピザ屋さんにてピザづくりのノウハウを学ぶべく修行中です。「公社をもっとよくするためには、どうすればよいか」というミッションを手提げ袋に持ち歩き、中ノ川地区の町営住宅で生活をスタートさせましたが、黒松内での生活も半年が経ち、今年も残す季節は冬のみとなりました。積雪を知らない温室育ち(その点は早生みかんと同じ)なので、スタッドレスタイヤから煙突式ストーブまで初体験の連続です。

どうして黒松内を選ばれたのですか?」。冒頭の質問は、私がよく遭遇する言葉の一つです。「エンドレスの人工物開発に染まることなく、ブナという自然物を起点にして豊かなまちづくりをしているからです」という趣旨で、質問にお答えしています。消費社会を象徴するチェーン店が立ち並び街を渋滞する車から眺めるような生活よりも、「自然にいたるのが自然」な黒松内（ブナリンゴコンカフェの奥さん曰く）での暮らしのほうが人間らしい気がするのです。

<<黒松内今昔物語>> ～黒松内山道こぼれ話⑤～

一酒と旅一 文：北村英芳

♪忘れてしまいたいことや～どうしようも無いさみしさに包まれた時に男は～酒を飲むのでしょう～♪は、河島英五の「酒と涙と男と女」の歌です。私は元々どうしようも無い男なので、どうしようも有る無しに係らず晩酌をたしなみます。そんなわけで、今回は酒と旅の話をつれづれに・・・

北海道の本格的な米作りは、明治の半ば過ぎからといわれます。同時期に酒の醸造も始まり、道内各地には大・小多くの蔵元ができました。そこで、当時の黒松内にも蔵元がなかったか調べてみました。右の写真は、明治 36 年発行の道内各地の商店を紹介した本（※註）に掲載された、寿都「松井源内商店」の広告です。内容をよく見ると、松井商店は島牧・歌棄に酒造場を持つ蔵元であったことがわかります。残念なことに、この本には黒松内の蔵元は載っていませんでした。

昨年の今頃、白炭地区と作開観音寺の間にある黒松内山道跡、通称「甚九郎沢の九十九折れ坂」を笹刈り整備中、土に埋もれた徳利のかけらを見つけました。幕末の頃トクリ酒を飲みながら馬に乗ったサムライでも落とした物なのでしょう？当時の酒は、本州各地から北前船で運ばれた大変に高価で貴重な品でした。そんな徳利を落とした旅人は、一気に酔いが覚めそして我に返ったことでしょう。そこで、旅人の心情を歌にしてみました。題名は『土に飲まれた酒と男と眼に涙』・・・

皆さん、お酒は飲みすぎはいけませんよ！程々に。

そして、老いてからの「夢追う思い旅」も程々に

平成 27 年 10 月 23 日 記

※註「北海道営業鑑：附・三府及横家と浜、神戸、愛知」著者 田辺禎蔵 編／明治 36 年 3 月出版



Yin Yang ～陰陽～

産業遺産・大栄鉱山



狩場駐車場より黒松内岳登山道入口を目指し、車で林道を4キロ程走らせると黒御影石の石碑が山側にある。石碑には「・・・金山が存在した唯一の証として精錬所跡のコンクリート槽が残され往時の隆盛を偲ばせている」と記されている。

町史を開くと、1931年に冷水沢で金の露頭が発見された後、この鉱山で高品位の金脈が確認された。そして、1940年に精錬所、変電所、鉄工場などが建設されるのだが、1943年に休山するまでには600人以上が暮らす鉱山町が形成されたということが記されている。大栄鉱山は、その後も1965年から2年間のみだが稼働し、廃鉱後の今では、石碑付近の山中に巨大な精錬所跡が残っている。

美 Beech Girls ～ビーチガールズに聞く～

※ブナは英語で Beech(ビーチ)

笠間サチ子(かさま さちこ)さん

1945年4月13日生まれ 札幌市出身 13区在住

Q.子供のころはどんな女の子でしたか？

A.12人兄弟の5番目に生まれましたが、内気で人みしりの激しい子供でした。小さい頃は、虹を追っかけてみたり、ミズバショウがバナナに見えて、食べたいと思ったりしていたわ。それと、クルミ採りをした時は、急いで家に帰ろうとして肥溜めにはまって、消防団に助けてもらったことがあったの(笑)。でも、肥溜めに落ちてクルミはしっかり握りしめて離さなかったの、消防団の人に「食い意地のはったお姉ちゃんだなー」と言われたことを覚えています。小さい時から食べ物への執着心があったかもねー。



Q.黒松内でお気に入りの場所(癒しスポット)を教えてください。

A.添別ブナ、黒松内岳、フットパス歩き(チョボシナイスコース、歌才森林公園コース)

Q.食生活で気を使っていることや実践している健康法、ストレス解消法はありますか？

A.好き嫌いをなくできるだけ地のものをいただく。健康面では、心身のバランスをとることを心がけています。ストレス解消法としては、庭いじり、友との語らい体を良く動かす。そして、人と交流することで自分がプラス志向になっていると思います。

Q.黒松内町に住んでみて感じたことを教えてください。

A.町の人たちがあたたかい。水が美味しい！空気が美味しい！四季折々の豊かな環境がたつぷり。小さな町なのに公共施設も整ってお洒落。いつまでも残しておきたいと思う黒松内の環境がこの町の財産だと思う。

編集長から一言。。。2002年に黒松内に移り住んでから、スキー仲間、登山仲間、くしんぼ仲間など、これまでに、少なくとも600人以上のお仲間を黒松内へ呼んでいるそう。しかし、お話を聞くうちに笠間さんが友人を呼ぶのではなく、友人たちがサチ子さんに会いに来るのだなと考えはじめる。。。『日本一〇〇』など見物に値する観光はリピート率が低いが、時間と共に周期的に人に会う交流観光は、細く長く続いていくと改めて思う。だが、年平均50人の友人たちを個人的に呼び寄せ、もてなすことは好きでなければなかなかできない。

Music ～DJ マミの音楽質～ 日本屈指のドラマー青山純

冬の定番曲、山下達郎の「クリスマス・イブ」。歌詞では「一人きりのクリスマス・イブ」という救われない内容のはずなのに、なぜかとてもドラマチックで曲全体から「前向き」な力を感じるという感想をよく耳にします。今回はその種明かしをしましょう。この「前向き」な印象は、この曲の「カノン進行」と呼ばれるコード進行も要因の一つなのは間違いありません。

ザードの「負けないで」やAKB48の「恋するフォーチュンクッキー」も、このコード進行を使っています。ですが、この「クリスマス・イブ」の「前向き」な力は、この曲でドラムを叩いている日本屈指の名ドラマーの演奏力が生み出したものと言ってよいでしょう。そのドラマーは「青山 純」といいます。ただのスピードやテクニック自慢のドラマーはいくらでもいますが、この人の持つ独特のグルーブ感、曲の理解力は、それとは別次元の存在です。「歌物の帝王」と呼ばれ、参加した曲は2000曲を超えるそうです。

平原綾香の「ジュピター」、あのスケール感たっぷりで、ドラマチックな世界も、青山純の演奏力が生み出したものといえます。作曲家やミュージシャンはその青山マジックを期待して、こぞ彼を起用したいと思うのです。「クリスマス・イブ」はとてもシンプルな8ビートです。譜面通りにはだれでも叩けます。でも「クリスマス・イブ」のあのグルーブ感、「前向き」なビート感は青山純にしか出せないのです。現在、第一線で活躍しているプロドラマーが叩いても「あの感じ」になりません。実際、バリバリのテクニックを持つ実力派プロドラマーの中にも「いつかは、こんなふうにドラムを叩きたい」と願う人もいます。「こんなふうに」とは曲に特別な力を吹き込むということです。

この特別な力によって32年前に生まれた「クリスマス・イブ」ですが、全く古さを感じさせず今年も街に響きわたることでしょう。 文 菅原マサミ



イベント情報 Dec.2015

<つなげよう、支えよう森里川海ミニフォーラム in 黒松内>

12月2日(水) 13:30～ 黒松内町コミュニティ防災センター
私たちの基盤、森里川海の恵みを認識し、未来の世代につなげていく取組み、それが「つなげよう、支えよう森里川海」プロジェクトです。
その取り組み内容や自然を活かした地域活性化への取組みを紹介し豊かな森里川海と地域のこれからを考えるフォーラムです。

※詳しい内容については、町役場企画環境課へお問い合わせ
TEL: 0136-72-3374 担当 高橋さん

ブナ里みてあるき 2016 サポート会員募中！

自然、文化、産業、そして人などの地域資源を活用した交流イベント「ブナ里みてあるき」は、来年も年間7回前後のイベントを企画いたします。今冬2月の「世界湿地の日イベント」を含め、あなたもイベントのサポート会員になり、黒松内へお越しになる来訪者の皆さまと交流の輪を広げるサポートになってください！年会費@1,000円(加入月から1年間有効)で会員になっていただくと、各イベント参加費の割引(約30%引き)、ニュースレター(年間4回)の送付や景品をプレゼントいたします。会員お申込みをご希望の方は、ブナ里ツーリズムまで、ご連絡願います。
連絡先: 090-5229-2056(携帯・本間)